

## 令和2年度 学校評価実施報告書

学校名 ( 松原中 学校)

## 教育目標

「自らを律し、仲間を大切にする、創造性豊かな生徒の育成」

## —自律・友愛・創造—

- ・自ら学ぶ力（学ぶことの楽しさや発見、自己を変革し続けることができる力）と律する力（人とのかかわりを成長の糧とし、自己や他者にとってより良い選択・判断することができる力）を鍛える。
- ・責任ある行動をとり、学び合い、高め合う「仲間づくり」ができるようにする。
- ・自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

## 年度末の最終評価

|         |   |
|---------|---|
| 自己評価    | 教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し<br><br>自ら学びに向かう生徒、また学び合いを通してインタラクティブな相互作用を通した学習活動を行い、ともに高め合える生徒を目指して、授業改善を重ねていく計画を立てていたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から授業形態の変更を余儀なくされた面があり、十分な目標を達成するには至らなかった。昨年度に続き道徳の研究指定を受けることを通じて、研修と実践を重ねてきた。教育活動全般を通じて道徳性を養い、仲間を大切にする心を育ててきたが、自らを律する面（自律）については家庭学習や基本的な生活習慣の確立などにおいて依然課題があり、今後も道徳教育やキャリア教育に力を入れつつ保護者と連携して効果的な指導を図りたい。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br><br>学校全体として落ち着いた中で生徒は過ごせているように思う。新型コロナウィルス感染症防止のため、昨年度のように学び合いに取り組むことが十分できなかつたが、前期から後期にかけて生徒アンケートのいくつもの部分で満足度が伸びてきている状態を大切にしてほしい。昨年度に続き京都市教育委員会の研究指定を受け、特別の教科・道徳の研究について、豊かな心や規範意識を育成しようとしていることは良いことであり、指定がなくなつても続けていくことが大切である。ただ、生徒はもっと積極性やチャレンジ精神をもって取り組めば更なる向上が望めるため、教職員とともに課題を共有して、必要な部分は大いに支援していきたい。              |

## 学校関係者評価の評価日・評価者

|      | 評価日       | 評価者            |
|------|-----------|----------------|
| 中間評価 | 令和2年9月8日  | 生徒、保護者、学校運営協議会 |
| 最終評価 | 令和3年3月18日 | 生徒、保護者、学校運営協議会 |

## (1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

## 重点目標

- (1) 生徒が探究心を向上させ、学習意欲を高める授業を実践し、学びに向かう力を育む。
- (2) 言語活動と協同を意識した授業を実施し、図書室を活用した授業に取り組む。
- (3) 体験的な学習活動を充実させるとともに、「21世紀型能力」の向上を意識した授業改善に取り組む。
- (4) 地域と連携した伝統文化教育を充実させ、カリキュラムマネジメントを通して全教育活動で横断的な学習に取組む。

- (5) 学習確認プログラム等において、本校の平均点の向上を図る。
- (6) 信頼される総括評価と形成的評価を充実させるとともに、パフォーマンス評価の工夫を行う。
- (7) 「特別の教科 道徳」も含め、すべての教科に言語活動・協同・議論を意識した授業を展開する。

#### **具体的な取組**

- 学力(言語活用能力・コミュニケーション能力)の定着のため、また支援を必要とする生徒のサポートとして、TTでの話し合い活動を多く取り入れたきめ細かな授業の実施(全学年国語、数学)。
- 「学力向上チーム」を構成し、学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査等を活用して、学力分析を行い、課題に対する共通認識のための研修会を実施。
- 学習に遅れがちな生徒には、単元末や定期テスト前、長期休業中に『補充学習』を実施し、また、夏季休業中や秋以降の完全下校後に『みらスタ学習会』を実施。
- 理科においては、観察や実験を多く取り入れ、体験と実感を伴った理解や科学的な思考力を養う。
- 毎日の家庭学習の習慣づけをするための取り組み(家庭学習プリントの活用・点検や週末課題の実施)を進め、主体的な学びにつながる自学自習の習慣化を図る。
- 学習確認プログラムの予習・復習シートや全国学力・学習状況調査を通じたPDCAサイクルの効果的な運用。
- 教科指導(授業)が究極の生徒指導と捉えて、授業規律の見直しや授業改善や教材研究を行う。そのための「授業研修」の充実(研究授業週間を年3回設定する)。
- 学びの共同体スーパーバイザーを招聘し、教職員が学び、少人数話し合い活動を取り入れた授業展開を積極的に進めていく(生徒の言語活用能力・コミュニケーション能力の定着と考える力の育成につなげる)。
- 朝読書7分間の時間確保と指導の徹底。
- 教員の指導力向上のために定期的に研修会を行い、互いに研鑽する機会をもつ。今年度は昨年度に引き続き道徳の指導と評価に関する研修を充実させる。

#### **(取組結果を検証する) 各種指標**

- ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。
  - ・習得した知識・技能を活用できる問題の達成度。
  - ・家庭学習課題や週末課題における達成の点検結果。
  - ・定期テストや単元のパフォーマンス課題における達成度。
  - ・生徒及び保護者アンケートの結果分析。
- 該当項目…①「どの授業も、自分なりに真剣に取り組めている」(生)
- ②「授業などに、グループ学習のような生徒主体の学習活動が展開されている」(生)
- ③「学校の学習において、基礎的な力が身についていると感じる」(保)
- ④「○○科の授業は、よくがんばっている(○○はすべての教科で問う)」(生)
- ⑤「家庭学習課題や週末課題は、家庭でしっかり取り組めるようにしている」(保)
- ・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見

#### **中間評価**

#### **各種指標結果**

特に学習確認プログラムにおいて、3年生の伸びが見られる。ねらいを達成するためにICTを効果的に活用している割合が多く、どの学年においても情報活用力が伸びてきている。上記該当項目の①については、生徒のアンケートから概ね達成へ向いていると思われるが、新型コロナウィルス感染症防止の観点から机をつけた「学び合い」形態を控えたため、②についての肯定的な意見は昨年より低下した。③④については、概ね良好な回答であるが、⑤については芳しくなく、家庭学習習慣の確立のために宿題や週末課題等を出しているものの、自律的な学習習慣が確立しているとは言い難い面がある。

|         |  |
|---------|--|
| 自己評価    | <b>分析（成果と課題）</b>   |
|         | 生徒アンケートで、各教科の「授業はわかりやすいか」という質問に対し、学年によりばらつきがあり、教師自身が真摯に自らの授業の質について見つめ直す必要がある。学習確認プログラムの結果においても、予習シートや復習シートまで力を入れているとは言え、1、2年生では全市平均を下回る教科が散見される。毎週金曜日に課している「週末課題」をはじめとする学校の課題や習い事で何とか一定の効果を維持していると言わざるを得ない。  |
|         | <b>分析を踏まえた取組の改善</b>  |
|         | 概ね授業によく頑張って取組んでいる傾向は一定評価できるが、さらに <u>授業の「質の向上」</u> を目指していかなければならない。また、家庭学習への意欲につながる「問い合わせ」や「振り返り」のあり方の工夫を図っていかなければならない。<br>今年度は新型コロナウィルス感染症防止や授業時数確保の観点から、授業力の向上を目指した校内・校外での研究授業が十分行えず、各自がもっとポータルサイト等を利用して <u>授業改善</u> を図っていかなければならない。<br>教室での学習が日常生活の場面で生きるような学習、単なる習得ではなく、活用や探究につながる意欲のもてる授業づくりに努める必要がある。 |
|         | <b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"><li>学習確認プログラムの分析において、低い通過率の分析や弱点に対する授業での補充学習により、低位（特にD群）の生徒を減少させられているか点検する。</li><li>学習確認プログラムや定期テスト、単元テスト等を通して「わかる」授業、達成感のある授業が実践できているかを点検し<u>授業改善</u>につなげる。</li><li>家庭学習課題や週末課題の提出を点検するとともに、引き続き自律的な家庭学習の定着を目指す。</li></ul>             |
| 学校関係者評価 | <b>学校関係者による意見・支援策</b><br>新型コロナウィルス感染症防止の観点から協働的な学習に制限があるとはいえ、生徒アンケートでどの学年においても「授業がわかりやすい」と9割以上の生徒が回答することが望まれる。多くの生徒が主体的に学びに向かおうとしていることは良い傾向である。昨年に引き続き英検の受験者が増えており、運営協議会としても支援していく。  |

#### 最終評価

|  |
|--|
| <b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>   |
| 生徒アンケートで、授業でグループ学習など生徒主体の学習活動が展開できていると答えた生徒が昨年度全学年で8割以上あったが、今年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点からグループワークを制限したため、76.8%と低下した。本校で進めてきた「学び合い」を今まで通りできなかつた。その影響か、どの授業も真剣に取組めていると回答した生徒は60.3%で、昨年度より低下している。家で計画を立てて勉強しているかというと引き続き課題がある（生徒アンケートでも7割に留ま |

っている)。自律的な学習習慣の確立を目指して、週末課題をはじめとする学校の課題や習い事で何とか一定の効果を維持していると言わざるを得ない。自律とは本来、自分で決めたことを自分でやりとげるものであり、週末課題や日々の学習課題を出しているからやらなければならないという性格が強いものになっている。かといって課題を出さなければ自主的に学習に向かうかと言えばそうはならない。

|         |  |
|---------|--|
| 自己評価    | <b>分析（成果と課題）</b><br>重点目標の達成状況、次年度の課題   |
|         | <ul style="list-style-type: none"><li>・学習確認プログラムにおいて、概ね3年生は伸びてきている。しかし教科ごとに見た場合、昨年度より数値が下がっている教科もあり、校内研修等において更なる授業改善の必要性を感じる。1年生は入学時からジョイントプログラムを見ても全市平均に至っていないが、これからどう伸ばしていくかが中学校に課せられた課題である。</li><li>・1年生は当初のジョイントプログラムで厳しい結果であった。これを受け家庭学習課題や朝のミニ学習や放課後の補習にも力を入れてきた結果、少しずつ向上しつつある。</li></ul>                          |
| 学校関係者評価 | <b>分析を踏まえた取組の改善</b><br><p>週末課題や毎日の家庭学習課題を出し、家庭学習の習慣化を図っている効果は表れてきている。大半の生徒は課題に取り組むことができている。ただし一斉の課題には限界があり、ドリル等は真に個別最適化されたEdtechの導入が望まれる。次年度2学期からはGIGAスクール構想において個に応じた課題を「端末」を使って取組せてあげられるため、個別最適化された学習を展開できるようにしたい。また、対面指導しかできない部分については感染症対策を図った上で取り入れたハイブリッド型授業の構築を行っていきたい。すべての生徒が主体的に学びに向かう力をもっとつけていかなければならないと感じる。</p> |

## (2) 「豊かな心」の育成に向けて

|   |
|---|
| <b>重点目標</b>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 生徒理解を深め、ていねいな個別対応を実践するとともに、積極的な生徒指導を実現していく。</li><li>(2) 居心地のよい温かな学級づくりをし、承認感のあるより良い集団とするために学級経営力を向上させ、<u>自他を大切にする態度</u>や心を育てていく。</li><li>(3) 生徒会活動や部活動の充実を通して、生徒の健全育成やボランティア精神の向上を図る。</li><li>(4) 人権文化の定着を図り、参加体験型人権教育を推進する。</li><li>(5) 総合的な学習の時間、道徳、特別活動を充実させ、よりよい人格形成を推進していく。</li><li>(6) 生徒の「いいとこ探し（ハッピーマッピー）」を全学年で行い、自己肯定感や自己有用感の向上に努める。</li><li>(7) 2年間の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の取組を終え、引き続き「しなやか道徳」の研究指定となったことから、今まで以上に考え方議論する道徳の指導を充実させ、自律心や他者への思いやり、ボランティア精神等の一層の育成に取り組む。</li></ul> |

### 具体的な取組

- 生徒会活動や学級活動、学校行事を活性化し、自治能力や自尊感情等を高めることにつなげていく。
- 道徳科の授業の充実をさらに図るために、さまざまな形態の授業を積極的に取り入れて行う。（話し合い活動・学年道徳・全校道徳・小中合同道徳など）
- 校庭内の花壇、畑地に季節の草花を積極的に育て、自然に親しみ、命を尊ぶ気持ちや、生き物を大切にする心を醸成する（生徒会環境委員会やボランティア生徒による植栽と管理）。
- 毎朝の「朝読書」の時間の保障と指導の徹底により、生涯学習としての読書習慣を身につけさせ、気持ちを読み取る力の充実を図る。
- 生徒指導の一環として、登校時の「あいさつ」運動を年間を通して実施していく。
- 互いの人間関係を上手く保つための「ありがとう」等の言葉を互いにかけるよう、道徳・学活等で日常的に指導する（感謝と謙虚の心を持った生徒を育成する）。
- 生徒会活動や委員会活動を通して、自治能力を高めるとともに、しっかりととした規範意識をもった生徒の育成を図る。
- PTAや、学校運営協議会と学校が協力して、地域とともに豊かな心を育む活動を行う。
- 保幼小中館連携協議会等を通じて、地域の子どもたちの規範意識の醸成や公共の精神の育成を図る。
- 地域の伝統文化体験・見学や歴史に触れて、地域を誇れる子どもの育成を図る。
- 全学年で「ハッピー・マッピー（いいとこ探し）」を行い、毎週生徒にフィードバックして自己肯定感や自己有用感の向上を図る。
- 平成29、30年度に取組んだ「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究成果を受け、年2回の道徳の公開授業を行うとともに、今年度指定を受けた「しなやか道徳」の研究推進を行う。
- 伝統文化をはじめ、地域の諸行事に積極的に参画し、大人との触れ合いを通して地域に貢献し、公共の精神を持った生徒を育成する。

### （取組結果を検証する）各種指標

- ・生徒指導部が中心となって、毎週「いいとこ探し」を行い、自己肯定感や自己有用感がどのように推移したか、アンケート調査の分析を行う。
- ・クラマネの分析や教育相談を通して、親和性のある温かな学級集団が育っているか検証をかける。
- ・「しなやか道徳」の研究指定による生徒アンケートから、公共の精神やボランティア精神が向上しているかどうか検証し、春から冬にかけて肯定的な回答をさらに増やす。

### 中間評価

#### 各種指標結果

保護者アンケートにおいて、全学年8割以上の保護者が「学校に楽しく行っている」と回答しており、同様に「学校や社会のルールをしっかり守れている」とも回答している。ただ、「楽しい」については、生徒アンケートとの間に少し差があった。それは生徒が新型コロナウィルス感染症の休校や学校行事の削減の影響や、多人数で密に取組むことを回避せざるを得なかつたため、保護者と生徒の満足度がギャップとなって表れたのではないかと想定される。また、公共の精神を育むことに寄与していると思われる地域の諸行事が、感染症対策のためほぼ見送りとなつたため、地域の人たちと協働して地域に貢献したりする機会がなかった。

自己

分析（成果と課題）

「自分たちによる学級活動や自治活動が行えているか」という質問に対し、肯定的な回答は昨

|         |   |
|---------|---|
| 評価      | <p>年度より減少した。これは、感染症対策のため、学級活動、道徳等で顔を寄せ合っての話し合いや合唱コンクールのような集団を創り上げる活動に制限（合唱は休止）せざるを得なかつたためと考えられる。</p> <p>社会的間隔も意識させなければならず、生徒相互のインタラクティブな活動がしにくい現状の中で、他者を思いやる心や達成感等の醸成が十分なされているには至っていない。</p> <p>生徒の「いいとこ探し（ハッピーマッピー）」については全学年で行い、自己肯定感や自己有用感の向上につながっていると思われる。</p>  |
|         | <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>感染症対策のことを考えると、全校で行う行事については蜜を避けるため、特に生徒会活動を中心にZoom配信等を行っていかざるをえない。</p> <p>あいさつについては、全学年で7割以上の生徒が「できている」と答えているが、もっと多くの生徒が日常的にできるよう、コミュニケーションの基本として定着させていきたい。</p> <p>年度当初から始めている「いいとこ探し」や「名言の掲示」は、毎週掲示し続けられており、そういう地道な活動や日々の挨拶運動等は、相互理解や豊かな心を育む根幹として継続していきたい。</p>  |
|         | <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>生徒アンケートで「学校はいじめをなくすことに取組んでいる」という質問に対し、肯定的な回答が昨年度より低下した。2学期以降の（制限はあるが）学級活動や道徳の指導を通して、上半期以上に肯定的な回答が上昇するよう取組んでいきたい。</p> <p>また市教委指定「しなやか道徳」の研究を一層進め、承認感のあふれる学級づくりの取組みを進めたい。道徳については心の変容を確かめるため意識調査をする予定である。</p>   |
| 学校関係者評価 | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>上記、肯定的な回答の低下には憂慮している。昨年度までの道徳に関する文部科学省の研究指定の成果があるはずで、引き続き心の教育には気を緩めることなく取組んでいくことが望まれる。感染症対策はしっかりと行いつつ、人と人の温かみのある関りが希薄にならないよう取組をすすめてほしい。</p>   |
| 最終評価    | <p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部が中心となり実施した、毎週の「いいとこ探し」は、<u>自己肯定感や自己有用感の涵養につながっている</u>。</li> <li>クラマネやいじめアンケートの分析や教育相談を通して、承認感のある温かな学級集団が育っていると思われる。生徒アンケートでは「挨拶・時間を守る・環境美化」という社会マナーの項目で87.3%の生徒が、学校が身につけさせていると感じている。特に「声を出して挨拶できている」と9割の生徒が回答している。</li> <li>「しなやかな道徳推進事業」の研究指定による生徒アンケートから、<u>公共の精神やボランティア精神が向上している</u>と感じている。</li> </ul> |
| 自己評価    | <p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>生徒アンケートで「学校に行くのが楽しい」との回答が76.5%で昨年度より低下した。新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、行事の一部中止や制限、3密回避、黙食などもあって今までのような生徒同士の触れ合い活動が思うようにできなかった。また地域での地域のふれあい祭りや小学校区毎の餅つき会なども中止となり、ボランティア活動での生徒が参加ができなくなつ</p>   |

た。地域で活躍し、地域の方からたたえていただき、自尊感情や公共の精神を育む活動ができないかったのは残念であった。これらはオンラインではできない人と人が一緒に集まってこそできるものである。一方、秋に生徒会生活環境委員会にボランティアの生徒が加わり、校内の花壇を整備したり、季節の花を育て、自然に親しみ、命を尊ぶ気持ちや、生き物を大切にする心を醸成することができた。環境づくりにはさらに力を入れ、年間を通じて花の絶えない学校づくりになっていくようにしたい。

#### 分析を踏まえた取組の改善

昨年度の道徳科（文科省）の研究指定に引き続き、今年度は京都市教育委員会指定「しなやか道徳推進事業」の研究指定をいただき、道徳科の指導法について研究することができた。そして1月に公開授業を行うとともに、オンラインによる研究発表を行った。道徳教育に力を注いでいることを通して、普段の生活の心の安定につながっているものと感じる。ただ、保護者や地域のかたにも参観していただきたかったが、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から参観は見合わせた。次年度も「しなやか道徳」の研究指定（2年次）を受けることが決まっているので、感染症対策を踏まえ少しでも多くの人に見ていただけるよう工夫改善していきたい。そしてさらに魅力ある道徳の授業づくりにする必要がある。

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 学校<br>関係<br>者<br>評<br>価 | <h4>学校関係者による意見・支援策</h4> <p>生徒アンケートで「学校に行くのが楽しい」と回答している生徒を昨年度と比較してみると、昨年度の方が高かった。感染症拡大防止のため常時換気し、夏は暑い風が冬は寒い風が入ってくるという環境面での影響も考えられるが、特に西校舎のエアコンは老朽化しており、次年度も同様の環境であれば同じ回答になるのではないか。環境の改善が望まれる。感染症対策も踏まえなければならないが、生徒会活動や部活動の活性化によって、生徒たち同士で心の悩みを解決できる場面もあるので、担任やSCだけではなく可能な限り生徒同士の活動を活性化してほしい。</p> |
|-------------------------|---|

### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

#### 重点目標

- (1) 「いのち」を最も大切であるという理念のもと、活気があり、安心して、安全な学校生活が送れることに重点を置いて学校活動を進める。
- (2) 保健衛生面に关心を持ち、積極的に健康維持に努めようとする態度を養う。
- (3) 基本的生活習慣の確立に向け、食や生活習慣について家庭への啓発を図る。
- (4) 新型コロナウィルス感染防止に係る運営上の工夫をあらゆる場面で行う。

#### 具体的な取組

- 保健衛生全般について、生徒会・保健安全委員会が中心となり、広報活動をしていく。また、養護教諭による、「保健だより」により啓発をしていく。
- 性教育・安全教育・健康教育に関する学習（禁煙、薬害、エイズなど）を系統的に取り組み、学活を活用して実施していく。
- 地域や学校運営協議会との連携により、防煙・薬物乱用防止教室等を計画していく。
- 食べること、寝ることなどの基本的生活習慣を整え、活力や意欲のある生活を送るために、食教育を充実させる。
- 基本的生活習慣等の健康調査をおこない、課題や改善点を共通認識し、日常の教育活動に生かせるよう研修会を行っていく。
- 学校保健委員会、保護者会、学校運営協議会を通して、健康教育への協力と理解をしていただく

めの活動をおこない、地域とともに子育てを行う。

○スマホ依存を防ぐため、学級での生活習慣指導とともに、外部講師による健康生活向上へ向けた講話の機会を持つ。

○感染症予防の指導を全クラスで行うとともに、密閉・密室・密接を避ける工夫を継続的に行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・健康調査を行い、朝食の摂取率や就寝時間の調査を通して、基本的生活習慣の確立の状況を分析し、スマホ、テレビ、ゲーム等の時間の比率の推移を点検する。特にスマホへの依存度合いを減少させる。
- ・防煙・薬物防止、飲酒防止教室等を各学年で実施し、健全で安全な生活が送れるよう指導し、今年度も喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す。

## 中間評価

各種指標結果

生徒アンケートから、「学校には心や体の健康について相談できる人や場所があるか」聞いたところ、学年が上がるにつれて「そう思う」と回答した生徒が多く、3年生では86%となった。心や体の健康に関する意識が向上していっているものと思われる。喫煙や飲酒等に関する補導は現在のところない。ただ、ゲームやスマートフォンにかかる時間が長い傾向にあり、就寝時間（睡眠時間の不足）に影響を与えているという課題がある。

自己評価

分析（成果と課題）

学級指導や学年集会等でスマートフォンのモラル（依存防止を含め）指導を適宜行ってきたが、トラブルは少ないものの、使用時間が長い傾向にある。習い事や家庭学習課題をこなす時間を考慮すると、就寝時間の不規則と大いに関連していると思われる傾向は昨年度と同様である。

分析を踏まえた取組の改善

SNSや薬物防止については、教科や学級活動でも指導していくとともに、保護者啓発にも取り組んでいく。密にならないよう感染症対策をしたうえで、地生連（PTAも含む）学習会を実施し、より保護者の意識啓発を行っていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

学校での保健・生活指導等のみで改善しないことは明らかであり、学校からの保健だよりや保護者会、新入生説明会、家庭教育学級等、あらゆる機会に家庭の協力を依頼し、基本的生活習慣の確立を目指す。また地域諸団体とも連携して、喫煙、飲酒、薬物ゼロを引き続き目指す。

学校関係者評価

7限授業に加え部活動や習い事による生徒の疲労はかなりあろうと思う。地生連では、生徒たちを取り巻く喫緊の課題をテーマとした保護者、地域の方に対する学習会を昨年度立ち上げた。今年度は感染症対策をしたうえで人数を絞り実施していく。特に薬物に関しては対岸の火事と思ってはいけない。関係機関とも連携し、生徒の健全育成のため支援していきたい。

## 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・基本的生活習慣や食教育重視の観点から、保健だよりや健食ニュース等を通して規則正しい生活習慣や食生活ができる生徒を増やせるように保護者啓発を行ってきたが、インターネット（スマートフォン）やゲームの時間を減らすには至っていない。

・感染症対策に力を入れたため、インフルエンザに罹患する生徒はゼロであった。また新型コロナウ

イルス感染症にかかった生徒もゼロであった。マスク、換気、手洗い、黙食、3密回避が功を奏した。また不要不急の外出を控えるよう折に触れて呼びかけたことも良かったのではないかと考える。

|         |  |
|---------|--|
| 自己評価    | <b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>  |
|         | 新型コロナウィルス感染症に対する第1波・2波・3波の経験生かし、今後も感染症対策を怠りなくすることに留意していく必要がある。来年度も今までのよう、地域のふれあい祭りや小学校区毎の餅つき会など、ボランティア活動で多くの生徒が参加したり、地域の学区運動会で活躍し地域の方から称えていただくことができるかどうかは不透明であるが、新型コロナウィルス感染症が早期に収まるとは思えず、ワクチンの普及も不透明で変異株の問題にも気をつけなければならないため、活動は今年並みに制限されると思われる。 |
| 学校関係者評価 | <b>分析を踏まえた取組の改善</b>  |
|         | 新型コロナウィルス感染症への対応については政府、文科省、市教委の通知を踏まえ、生徒の健康と安全を第一に、適切に対応していきたい。早期に終息に向かうとは想定できず、日常の手洗いや換気、黙食、3密回避、うがいの励行等に心がけていきたい。   |
| 学校関係者評価 | <b>学校関係者による意見・支援策</b>  |

#### （4）学校独自の取組

|   |
|---|
| <b>重点目標</b>   |
| 義務教育9年間の教育目標を「育ちと学びの連続性の確立」と捉え<br>○地域の子どもたちの様子を保・幼・小・中・地域で交流し、課題を探り共有を図る。<br>○保・幼・小・中・地域で、目指す子ども像の具現化に向けて実践する。<br>○「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を通して、考え方議論する道徳教育の確立と評価についての研究を進める。  |
| <b>具体的な取組</b>   |
| ○夏季休業中に3校合同での全教員参加研修を実施し、分科会でテーマごとに研鑽を深め、児童生徒の課題や育てたい力について共通認識を図るとともに、小中連携の一層の充実を目指す。<br>○「しなやか道徳」の研究指定を進めるための体制を整え、6月より研究授業を実施していくとともに、年2回の公開授業は保護者・地域にも公開する。<br>○毎月の3校校長会、教頭・教務・研究主任を加えた総務部会、生徒指導主事・主任会、オープンスクールの開催、保幼小中館連携会議（館は児童館）の活性化等の取組を展開することで小中連携の充実を図る。 |
| <b>（取組結果を検証する）各種指標</b>  |
| ジョイントプログラム、学習確認プログラムの分析による小学校から中学校への接続状況に落ち込みは見られないか、不登校の状況はどう変化したか等、学力向上委員会や生徒指導委員会で検証する。ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ5ポイント以上の向上をめざしたい。また地域の子どもたちの様子について、学校運営協議会において評価を仰ぐ。  |

## 中間評価

### 各種指標結果

生徒指導や不登校ぎみの生徒や支援をする生徒の連携はできているが、学力向上委員会において、ジョイントプログラム、学習確認プログラムの接続に関する会議は進んでおらず、小中の学力面での交流は進んでいない。保幼小中館連携会議（館は児童館）は感染症対策のため見合わせている。

自己評価

#### 分析（成果と課題）

毎月の3校校長会は実施できている。ただ、児童が中学校へ来てのオープンスクールの秋の開催については感染症対策のため見合わせた。夏季休業中に例年実施していた小中合同での研修会も密になるため実施できなかった。総合育成支援関係では、小中交流のための行事を感染症対策を踏まえた上で行う予定である。

#### 分析を踏まえた取組の改善

小学校から入学してくる生徒の学力実態が下降をたどっている実態があり、小中学校同士での教員間の交流が少なく、感染症対策の配慮は必要であるが、もっと本音で児童生徒の実態を討議できる環境づくりが必要と思われる。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

過去2年間にわたる文部科学省委託「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の成果をさらに一步進めるため「しなやか道徳」の研究指定を受け、夏より研修会を実施してきている。令和3年1月に研究発表を行う予定で、公開授業は保護者・地域にも公開する予定である。道徳は生徒アンケート等で意識の変容をいくつかの項目で見る予定である。

学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

地生連主催のコミュニティプラザ事業は、多人数が密となるため感染症対策の観点から見合わせた。ただ地域の方も交えて地域の子どもたちを見守る活動は今後も形態を考え進めていく。来年度入学予定保護者への授業参観や部活動参観も感染症対策の観点から見合わせるが、その分、小中の連携をしっかりと取ることが望まれる。

## 最終評価

### （中間評価時に設定した）各種指標結果

・オープンスクール（中学校での小学校6年生の授業体験や部活動体験）等の接続を図る取組みを行ったかったが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から行えなかった。その代わり、生徒会や部活動の紹介ビデオを作成し、生徒会本部役員が小学校へ訪問して中学校の紹介を行った。

・学力面においては確認プログラムにおいて、2、3年でポイントが少しずつ上がり力がついてきているが、1年生は入学時から厳しい状況が続いているし、まだまだ伸ばし切れていない。更なる授業改善が必要である。

・保幼小中館連携会議（館は児童館）は新型コロナウィルスの影響のため今年度は実施できなかった。

自己評価

#### 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

・小中一貫の重要性が言われている中、入学して来る生徒の学力実態が下降の一途をたどっており、小中の相互授業参観をはじめもっと大胆な交流が望まれる。児童生徒の実態は「指導の実態」と（小・中ともに）受け止め、引き続き学力向上に関する研修を続けていく必要性を感じる。支援を要する生徒が年々増えているが、個別の指導計画や通級対象の生徒については、円滑に接続することができている。

・「しなやか道徳推進事業」を進めるため、道徳の公開授業を実施した。できれば保護者のみなさず地域のかたにも参観していただく機会を設けたかったが、新型コロナウィルス感染拡大防止

|  |   |
|--|---|
|  | <p>の観点から学校間同士のオンライン配信に留めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の3校校長会で、小中や地域の合同行事をはじめとする情報交換を継続して行えている。ただし、教頭・教務・研究主任を加えた総務部会や生徒指導主事部会は行うに至っていない。</li> </ul>  |
|  | <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しなやか道徳推進事業（1年目）」を進め、道徳科の指導と評価については、前年度までのベースをもとに小・中ともに研究することができた。次年度は2年次の研究指定として、より一層豊かな心を育てる研究を引き続き推進していきたい。</li> <li>・昨年度は、オープンスクールで中学校の授業体験の機会を持つとともに、6年生の保護者にも参観していただけたが、今年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため見合わせざるを得なかつた。次年度はオンラインを駆使する等の方法で小中の連携事業を推進していくことを検討する。</li> </ul> |

## 学校関係者評価

### 学校関係者による意見・支援策

- ・「しなやか道徳推進事業」の研究指定を受け、心の教育の充実に力を入れていることは良い取り組みである。次年度も2年次の指定を受けることになっており、道徳性を一層養うチャンスであり、豊かな心をより伸ばしてもらいたい。
- ・オープンスクールが行えなかつたのは残念であるが、感染症対策の視点から言えばやむをえない。これからも小中一貫へ向けた取り組みを一層推進していくことが望まれる。学校運営協議会も（今年はできなかつたが）次年度可能ならば小中合同会議をもち、学校の活動を支援したい。

## (5) 教職員の働き方改革について

### 重点目標

- ・教職員一人一人が勤務時間を意識するとともに、子どもと向き合う時間を確保する。
- ・中教審及び文科省が明示した教師の「本来的業務」を重視し、「周辺業務や境界業務」を精査する。

### 具体的な取組

- ・電話応対時間を午後7時までとし、以降は留守番電話に切り替える。
- ・定期テストの日の午後や長期休業日における年休の取得を推進する。
- ・PTAの夜間の活動は、週1回を基本とし、かつ午後9時を閉門とする。
- ・長時間勤務の改善を目指すが、いわゆる「持返り残業」「風呂敷残業」は、個人情報保護の観点から推奨せず、学校で効率よく完結して帰宅するようにする。

### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員の勤務時間。
- ・年休取得率。
- ・PTAの夜間の活動の精選と効率化。
- ・研究指定「しなやか道徳」がある中の研修会の効率化。
- ・「周辺業務や境界業務」が削減できたかどうか検証していく。

## 中間評価

### 各種指標結果

休校の回復による7限授業、部活動指導、翌日の教材研究やワークシートづくり、延期となった修学旅行や定期テスト等の学校行事が2学期に大きな負荷となり、今は超過勤務縮減まで十分届いていない現状がある。生徒たちのためにも、（コロナ対策を踏まえつつも）できるだけの教育活動を行い

たいので、業務の効率化を図りつつ「質」を維持できるようにしたい。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・電話応対時間を基本的に午後7時までとし、以降は（特に事情がない限り）留守番電話に切り替えている。
- ・定期テストの日の午後や長期休業日における適切な年休の取得を推進している。
- ・PTAの夜間の活動は、PM9時までを基本としている。
- ・昨年度に、夏休み中の夜のパトロールを廃止、かわりに子どもを取り巻く喫緊の課題学習会に変更した。今年度は11月に下京警察署少年係の協力を得て行う予定である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・校務支援員を配置して下さり、プリントの準備等事務的な補助をやっていただけるため、教員は本来的業務に打ち込みやすくなつた。今後も活用が望まれる。
- ・特に問題のない日には、できるだけ早く帰宅できるようにしている。ただ今後進路に関する業務が増えるため、メリハリをつけた勤務を心がけ長時間勤務を極力減らしたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教育の質は維持しつつ、長時間労働にあたる教員の人数を減らす。
- ・毎週水曜日は午後7時閉門を目指としている。極力この実現をめざす。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

今までから、毎回学校運営協議会で教員の時間外勤務の多さについては理事の中から課題提起があり、文部科学省が働き方改革の答申を受けて是正に向けて動き始めていることは良いことであるが、より実効性のあるものになっていくことが望ましい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・教育の質を維持しつつ「やらなければならないもの」の総枠が減少しない限り、勤務時間を大きく減らすことは困難である。支援を要する生徒や不登校傾向の生徒への対応も欠かすことができなく、様々な面での行事や会議の一層の精選が必要である。
- ・長期休業を中心とした年休の計画的な取得が進みつつある。
- ・新型コロナウィルス感染症拡大防止の影響もあり、PTA活動の精選も進み、活動自体もスリム化し効率的に行えるようになり教師の負担も減っている。
- ・昨年度1月25日の中央教育審議会働き方改革特別部会答申や、それに続いて発出されている3月18日文部科学大臣メッセージが保護者にも地域にも周知されていない。学校でこそすべきことに絞っていくべきで、さらにPTAや地域に啓発を行う必要がある。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

中央教育審議会答申が示した、教師の「本来的業務」を重視し、「周辺的業務や境界的業務」を精査していく必要がある。ただし上記の通りこの内容や意図が浸透していないため、改善へ向けたアクションが弱いし、何でも学校に依存傾向にある保護者が増える中で、学校のみの努力では限界がある。社会全般がもっと理解していく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

次年度も学校総体として超過勤務の時間を減らす方向で検討していく。ただし「時短」は目的ではない。時短ばかりを前面に出しすぎると、いわゆる持ち返り残業や虚偽の申告（出退勤管理

|                             |   |
|-----------------------------|---|
|                             | <p>打刻改ざん) になりかねない。昨年2月に文科省から出された「指針」においても、基本的に持<br/>り返り残業は認めておらず、やらなければならないことが数多くある中、精選と効率化を可能な限<br/>り図って時間外勤務の縮減に努めていくのが本来の姿である。</p>   |
| 学校<br>関<br>係<br>者<br>評<br>価 | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>教職員アンケートからも教師が過労になっていることが伺える。これではいい教育活動につな<br/>がらない。保護者アンケートでは学校に対する満足度が高いが、教師の献身的な日々の努力があ<br/>ってのことであり、本来家庭でやるべきことともあらゆることを学校に頼りすぎているではない<br/>か。日本の教師の残業時間が他国に比べて多いのは周知の通りであり、定数を増やすとか、教師の<br/>抱える多くの業務を削減していかないといけないと切に感じる。</p> |